

## 「砂防堰堤に感動」

鹿児島県 学校法人鹿児島純心女子学園鹿児島純心女子中学校 2年 <sup>ひがし</sup>東 <sup>あやか</sup>彩花

東日本大震災には及ばないにしても、わたしの住む鹿児島県は、非常に自然災害の多い県ではないだろうか。今年は桜島大正噴火から100年、八・六水害から20年と災害に関する報道をよく目にし、耳にする。また鹿児島ではないが、各地で豪雨による水の被害のニュースも目にする。逆に干ばつ被害に関しても目にする。よく言われている温暖化が原因なのだろうか。

先日、叔父と桜島にある国際火山砂防センターを訪ねた。建物本体が避難施設であることや、横にある川が重要なものであることを知った。

そこには水は無く、川というよりも幅の広い溝というイメージを持った。川はコンクリートに覆われ、いくつか上流に向かって、ダムのように堰き止められるように壁があるのが見えた。自然の中の人工物に、少し違和感を覚えた。

そのことを叔父に話すと、このようにむき出しのものばかりではないことを教えてもらった。周りの景観に沿った構造の砂防堰堤もあるそうだ。実際に見てはいないが、いちき串木野市の冠嶽にある砂防堰堤は、驚くほどきれいらしい。景観を考え、コンクリート構造の表面を自然の大きな岩で隠し、砂防堰堤を作っていて、一見砂防堰堤には見えないほどだそうだ。インターネットで見ると、確かに周りと合っているように見えた。

また砂防ダムと一般的にいう呼び方もおかしいということも教えてもらった。通常ダムは貯水を目的としているらしく、砂防堰堤というのが正しいそうだ。なかなか細かくて理解するまでにはいけませんが、そうらしい。

センターで砂防について見て、学んで、考えた。初めて見た時に感じた、コンクリートの溝が、とても頼もしい物だということが解った。上流から流れ出る大量の土砂を、徐々に下流に流す仕組みであることが解った。特に溶岩と火山灰を含む桜島は、大切な構造物であることが解った。またなせ幅も広く、大きいのかということも解った。定期的に、溜まった土砂を取り除くため、重機の往来や作業効率を良くするために大きくしてあるそうだ。

帰りの車の中でいろいろ砂防堰堤について話した。すると毎日通学で通っている道からも、いろいろなところに、大きなものから小さなものまであって、見えるということだった。本当に見えることも知った。町のすぐ上にあるものや、山や団地の中腹にあるもの、その一つ一つが、わたしたちの生活を守ってくれているものだとなると、少し前まで違和感を覚えたものが、何故だか少しも違和感の無いものに思えてきた。

今までに確かに、あれって何だろう。何のためのものだろう。と思ったこともあったように思う。でもすっかり忘れていた。興味が無かったことも一つの原因かも知れないが、実は時間の経過とともに、人工の構造物でも受け入れていたのかも解らない。でも遠くから見ているからだとな叔父は言った。近くから見ると、誰でも、いつでもやはり違和感を覚えて当然と言った。近くに住んでいる人たちは、おそらくストレスに感じているのではないかとも言った。

叔父の言葉で印象的だったのが、  
「景観を考慮することはとても大切なことだが、一番大切なことは、人命で生活だ。」  
という言葉だった。

わたしたちの命や生活を守るために造られている砂防堰堤、わたしの知らない時、知らないところで活躍してくれている。自然の猛威と人間の知恵比べ、とてもおもしろいと思い、それを叔父に言うと叱られた。自然災害は起こらない事に越したことは無いが、備えは大切なことには間違い無い。

今回災害について考えることで、これから自分が意識しておかなければならないことが少し解った。災害が起こった時に、まず砂防堰堤などがあるところには近づかない。なぜならば、そこは水の影響を受けやすいところだから造られているということだ。このことが解っただけでも収穫だった。

ただもっとじっくりと見ておけば良かったと、帰ってから思った。桜島の砂防堰堤を近くで、大きさや造りを実感してみたいと思った。しかしそれは出来ない様だが、たまに一般公開があるようで、機会があったらぜひ参加してみたいと思った。そしていちき串木野市の砂防堰堤は見に行きたいと思った。